函館市地球温暖化対策地域推進協議会
平成２８年度第２回実行計画評価検討部会　会議概要

１　日　時　平成２８年７月２７日（水）午後１時３０分～２時３５分
２　場　所　函館市環境部４階大会議室
３　出席者　委員（６名）
清水愼一委員，池田誠委員，山崎治央委員，大滝隆一委員，
佐藤不二子委員，津金孝行委員
アドバイザー
公益財団法人北海道環境財団　事務局次長　久保田　学 氏
事務局（４名）
事務局長　細越清朗（環境部環境総務課長）
事務局員　池田直樹（同課主査），佐藤弘康（同課主任主事），高橋沙耶（同課主事）
４　傍聴者　なし（随行者１名）
５　発言要旨
《１　開会》
・資料の確認

《２　議題》
（１）函館市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）評価検討報告書（案）について
・事務局から事前配布資料「函館市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）評価検討報告書（案）について説明
（津金部会長）
今回で報告書の最終案を取りまとめする予定ですので，皆様のご意見，ご質問，ご感想等をいただきたいと思います。ご発言をお願いいたします。
（池田委員）
一点目は，西暦（年号）と西暦のみの記述があり，例えば，１５頁の表５－１は，西暦（年号）で１６頁の表５－３は，西暦のみですが，何か基準があれば教えてください。
二点目は，１７頁「おわりに」の後半部分で，温暖化対策を防災対策としてとらえることについて，非常に賛同できますが，そのことが「おわりに」の前にどこかでふれられていれば，より良いと思います。
（津金部会長）
最初の，西暦(年号)の問題については，事務局いかがでしょうか。
（事務局）
明確な基準はありません。文章中では，西暦（年号）で統一していますが，一部の表や図で西暦のみとなっているので，統一する方向で検討いたします。
二点目のエネルギー政策や防災対策との関連について，「おわりに」の前でふれることについては，現行の計画策定時に，エネルギー政策や防災対策との関連についての記述や評価指標がないことから，進捗状況の評価として「おわりに」の前に記載することは，難しいと考えますが，次期計画に向けて，本部会の議論の過程で，エネルギー政策や防災対策との関連について意見があったことから，「おわりに」の中で記述しているということで，ご理解いただきたいと思います。
（津金部会長）
今の件に関して，他にご意見はありませんか。

（山崎委員）

「おわりに」を読んだ時に，温暖化対策とエネルギー政策や防災対策の関連性について，中間のプロセスがない印象を受けました。

後半の資料の中で，函館市のアクションプランが記載されていますが，この中に低炭素型の街づくりの推進や自然・未利用エネルギーの導入などありますので，都市建設部など他の部局の取組になるかもしれませんが，そこをピックアップして，一方でそのような検討もされているという見せ方もあると思います。

（津金部会長）

そのような方向でまとめられる可能性はありますか。

（事務局）

報告書の７頁に，市のアクションプランの中から主な取組を記載していますので，ここに関連づけて記載できる可能性はあると思います。ただし，先ほど，ご説明したように現行計画では，エネルギー政策や防災対策との関連について，明確な記述がないため，表現として強引になる可能性が高いので，お時間をいただき，検討させていただきたいと思います。

（津金部会長）

逆に，「おわりに」からエネルギー政策や防災対策に関する記述を削除した方が良いということではありませんね。

（事務局）

現行計画の進捗評価をする中で，計画策定から５年経過し，時代背景も変化する中で，計画策定当初に想定していたよりも，温暖化対策とエネルギー政策や防災対策との関連が強くなったことを「計画策定時からの変化」として報告書の中間で記載することが想定されます。

（津金部会長）

今は，計画の進捗評価があり，その結果を踏まえて，「次に」という部分は，「おわりに」で述べるという考え方です。

（清水委員）

関連ですが，函館市の再生可能エネルギーの実態がこれくらいのレベルであるから，今後，こうしなければならないといった資料などがあれば，説得力が増すのでないでしょうか。

（大滝委員）

関連で，「おわりに」の中で再生可能エネルギーについて記載していますが，４７頁の資料との関連や今後どのようにするのか分かるものが必要ではないでしょうか。

（津金部会長）

最初の函館市の再生可能エネルギーの実態などについては，わかりますか。

（事務局）

民間が独自に進めている案件など，１００％把握できていません。

再生可能エネルギーの実態把握や将来の導入目標については，温暖化対策と関連が強いものの，本来は，エネルギー政策の根幹となる部分であることから，エネルギー政策を担当する部局が明確な数値目標を設定していれば，温暖化対策としても取り込めますが，明確な数値目標がない現状では，温暖化対策の側面から，踏み込みづらい面もあります。

４７頁の資料は，北海道の計画との関連で記載し，北海道の温暖化対策として整理された数字ですが，具体的なアクションプランなどに基づいて，実態と進捗状況が把握できているものではなく，方向性が示されたものだと理解しています。

函館市のエネルギー政策の中で，再生可能エネルギーに関する明確な数値目標がな

い現状では，資料との関連や今後の見通しについて，温暖化対策として独自に目標水準を設定することが難しいため，次期計画では，エネルギー政策などと連携を強化することの必要性について，「おわりに」で記述しているということで，ご理解いただきたいと思います。

（津金部会長）

報告書のまとめ方としては，エネルギー政策との関連などは，「おわりに」の中で表現するイメージでしょうか。

（事務局）

基本的には，「おわりに」で記載するイメージで提案しておりますが，中間の函館市のアクションプランに関連して記載できる可能性もありますので，適切な表現でまとめられるか，再度，検討いたします。

（津金部会長）

ただいまの説明でいかがでしょうか。

（池田委員）

「はじめに」と同様に，「おわりに」も部会を代表する津金部会長の意見とすることで，より分かりやすく説明を増やして，「おわりに」で記述することで良いのではないかと思いました。

（久保田アドバイザー）

部会では，進捗の確認と抜本的に計画を見直す状況にないという前提で議論してきた中で，パリ協定や国の温暖化対策の目標が非常に高いことから，今後は，地域の市民活動や事業活動を市の計画で，どれくらい誘導できるか，益々，評価が求められると思います。

今回は，そこまでの検討はできていないので，「おわりに」の部分で次期計画に向けて，部会の中で宿題として指摘された項目を検討の頭出しとして，何らかの形で記載した方が良いと思います。

今後は，国の計画策定マニュアルも改定され，街づくりなど他の分野との整合なども強化されるので，次期計画の準備をする上でも，「おわりに」で記載しておいた方が良いでしょう。

４７頁の資料に関して，最終的には市の政策として，各項目のモニタリングデータがあって，進捗や費用対効果について確認することが必要ですが，データがないものも多いため全部は無理ですが，市の重点的な施策として，街づくりや防災対策との関連でどれくらい温室効果ガスを減らすかということを次の計画でうまく見せられると，市民や事業者の関心喚起にもつながると思います。

（津金部会長）

この報告書では，「おわりに」の部分で，久保田アドバイザーがおっしゃることを書きつつ，次回の計画に反映させることが重要であるという方向が示されていれば良いということでしょうか。

計画は，この報告書を提出した後で，改めて市で策定するということですね。

（事務局）

現行計画の計画期間が終了した後に，次の計画を策定します。

（津金部会長）

次の計画への申し送り事項ということを意識して，報告書を取りまとめるということで，もう少し検討させていただきたいということです。

（久保田アドバイザー）

「おわりに」の中段で，一方，・・・事業者にとって良いことではありません。という表現ですが，温暖化対策の観点から，温室効果ガスが減少することは良いことな

ので，少し矛盾しているように見えますので，良いことばかりではありません。くらいの表現が良いのではないでしょうか。

（津金部会長）

佐藤委員から質問や感想など，ありませんか。

（佐藤委員）

地道に様々な活動をされてきたと，感心して資料を見ていました。

（津金部会長）

一般市民から見て，分かりづらい点など，ありませんか。

（佐藤委員）

先ほど久保田アドバイザーが言われた，一方のくだりは，少し分かりづらくて，良いことか，悪いことなのか疑問でしたが，「良いことばかりではありません。」という表現だと理解できます。

専門用語が多く，翻訳が必要だと感じますが，議論する内容の性格上，仕方ないと思います。

（津金部会長）

他にも，疑問点や意味が分かりづらい点などあれば，具体的な事例を挙げて，事務局から説明していただけると思いますが，何かございませんか。

ここまで，皆様からご意見いただきましたが，今回の会議で協議を終えて，私と事務局で調整して，報告書を取りまとめる方向で考えておりますので，ぜひ，ご発言をお願いいたします。

（久保田アドバイザー）

検討結果は，環境審議会に報告される予定だったと思いますが，この後の公表などの予定は，どのようになっていますか。

（事務局）

実行計画評価検討部会で協議した結果を報告書という形で，函館市環境部に提出していただき，函館市環境部から環境審議会へ，外部の組織による計画の評価として，協議結果を報告することになります。

（久保田アドバイザー）

市民に向けての公表や，説明会などの予定はありませんか。

（事務局）

計画の改定ではありませんので，説明会などの予定はありませんが，重要な議論であるため，部会の会議録，報告書については，協議会ホームページで公表を予定しておりますが，委員各位からご意見はございますか。

（久保田アドバイザー）

情報公開された方が良いでしょう。注意点としては，報告書をそのまま公開するだけでは，市民の関心や理解の点から，問題があると思いますので，短く翻訳して，市の政策として伝わる機会になれば良いでしょう。

今回，計画を見直すわけではないので，公表するだけで良いという考え方もあるでしょうが，市の広報等で計画の見直しはしないが，市民の取組が大切だというメッセージを外部に伝える機会（政策コミュニケーション）として強化されると良いでしょう。

（津金部会長）

事務局，そのような可能性はありますか。

（事務局）

市役所は，外部への情報発信が弱いという認識もあり，当然，強化していくべき点だと思います。一例としては，年１回開催する市民講座などの機会に，積極的に外部

に情報発信することなどが考えられますので，検討します。
（津金部会長）
別途，検討するということですね。検討するのは，函館市と協議会のどちらになりますか。
（事務局）
計画の進捗を伝えるという意味では，一義的には，函館市の責務ですが，実行組織として，協議会にもご協力いただきながら，進めたいと思います。
（山崎委員）
市政はこだてのような広報誌に掲載することは，難しいのですか。
（事務局）
紙面の制約もあるので，難しいところですが，温暖化に関する広報を強化するため，様々な機会をとらえて広報したいと考えています。
（佐藤委員）
１２頁の「現状趨勢」とは，どのような意味ですか。
（事務局）
現状趨勢とは，全く（温室効果ガス削減の努力を）何もしない，機器の効率も変わらないという前提で進んだ場合のことになります。
（津金部会長）
市民向けですと，今の事務局のような表現になるということですが，報告書は，このままでよろしいですね。
（佐藤委員）
はい。もう一つ，１３頁の「重ねてプロットした」についても，教えてください。
（津金部長）
一緒に書いたということです。
（清水委員）
報告書は，これで良いかもしれないが，一般向けに説明する時には，注釈をつけた方が良いですね。
（津金部会長）
他にご意見なければ，今後は，部会を開催せずに，私と事務局で本日出された意見を取り込む方向で調整し，報告書を完成させることでよろしいでしょうか。

（異議なし）

（津金部会長）
それでは，そのように進めさせていただきます。

（２）その他
（事務局）
・市民ノーマイカーデー事業の案内と参加のお願い
・部会での協議に対するお礼
・完成した報告書は，後ほど議事録とともに送付する旨，案内
（津金部会長）
以上で本日の議事は全て終了いたしました。長時間にわたりありがとうございました。これで本日の協議会を閉会いたします。

《３　閉会》